只見短歌会　三月詠草

大塚栄一　指導

雪の予報外れて晴れし一日をまうけものだと人ら喜ぶ　小倉キミ子

読み聞かすことに戸惑ひ覚ゆれどいちづな児童の瞳と向き合ふ　関谷登美子

春休みに来るとふ孫らに雪の嵩言へば驚きその後沙汰なし　古川　英子

春近き軒に下げ置く凍み餅に椋鳥並び急ぎ綱張る　渡部ゆき子

年長く配りてくれし牛乳を今日が最後と言ふは寂しき　五十嵐夏美

日ごと降る雪片付けて痛む肩庇ひて孫との夕食作る　馬場　八智

歩みゆく手の振り方で健康が思はれ人等にわれも交はる　目黒　富子

初めての温泉を大きな風呂と言ひ孫は喜び歩き回るも　渡部ヨリ子

退院の付添ひに来てくれし姪われとさほどの年の差あらず　新国　洋子

（出詠順）

只見俳句会　四月例会

目黒十一　指導

病室に眺む磐梯山春近し　藤彦

冬囲い取り払われし庭の木々　康女

薄氷われ先に割る通学路　一灯

凍大根白し軒先はなやげる　都

堅雪に人影走る犬走る　邦男

堅雪や朝の挨拶手を振って　恒夫

雪道や清版画の画廊めき　吉児

堅雪や老農ふたり土を撒く　礼

雪掻くや年々凹む力瘤　笑羊

矍鑠のカイゼル髭に雪の花　邦夫

長江の思い出遙か胡沙来る　リウコ

うぐいすの谷渡り聞く露天風呂　信

囲い取る一枚づつの暖かさ　ほめ上手居るは幸せ煮大根

春耕に備え体力作りかな　お彼岸や立て掛けてある兄の杖

春の風邪口の達者な運転手　春雨や庭石さっと濡らすほど

花莚やたら握手の男居て　松籟や三月十一日黙祷す

植込の冬囲棒外しけり　洋子

春光や道路の雪は剥がされて

水嵩を増やす川辺の猫柳

菠薐草茹でる菜箸の白さかな

家々に灯りはじめし春の夕

見送りに真っすぐを見て卒業す

幾年の過ぎてぞ会わん卒業歌